

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1172502211		
法人名	社会福祉法人 桑の実会		
事業所名	康寿園グループホーム輝		
所在地	所沢市東狭山ヶ丘6-2796-1		
自己評価作成日	平成31年3月25日	評価結果市町村受理日	令和元年7月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成31年4月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、「桑の実会」が運営母体となっているグループホームである。「その人らしく輝いて欲しい」という理念のもと、職員は利用者の伴奏者となるように生き活きと笑顔で介護に励んでいる。ホームは住宅地の中にあり、小中学校に隣接している。ホームの中は廊下を含め共有スペースなど広くゆとりがある。地域交流室を自治会やボランティア会議などの地域活動に開放している。習字や絵手紙など多様なボランティアによる来訪があり、利用者の楽しみと気晴らしにつながっている。職員は、ホームの開設前から通学路に立ち小学生の登下校の見守りを行うなど、地域住民との関係ができていく。また、運営推進会議には、小学校長、行政、自治会長や地域住民の参加により活発な審議が行われており、災害、防災への地域住民による協力体制ができており、地域に密着したグループホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・体操教室に出かけられ、地域の皆さんと一緒に楽しめたり、お習字やお茶の先生との交流や小学生とのふれ合い活動など、利用者と地域の人とのつながりを大切に支援に取り組まれている。
- ・運営推進会議では、事業所から利用者の暮らしぶりや活動報告のほか、介護保険制度についての勉強会や「地域で認知症高齢者を支える」をテーマとした徘徊模擬訓練の振り返りなど、幅広い内容での意見交換をされるなど、有意義な会議運営をされている。
- ・目標達成計画については、平成29年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、課題を設定し、災害対策として、ライフラインを断たれた場合を想定し、卓上ガスコンロやランタン、飲料水の確保など備蓄整備に取り組まれていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のユニット会議や職員合同会議で、事例をもとに理念の実践に向けた取り組みを行っている。また、新入職員には、入職時に管理者が説明指導を行い、理念の共有に取り組んでいる。	「その人らしさを大切に、いつまでも自分らしく輝いてほしい」という理念のもと、利用者の地域との関わりを大切に、笑顔でその人らしく、生き活きとした暮らしを過ごされるよう支援に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は積極的に行われている。地域の行事に参加するほか、ホームの行事(花見、夏祭り、クリスマス会)などへの招待には多くの住民の参加がある。また、ホームの地域交流室を地域に開放することで情報交換がなされ、ホーム開設前から小学生の登下校の見守りを行うなど、地域の人々との交流に努めている。	外出時には近所の方と挨拶を交わされたり、地域の祭りや運動会への参加のほか、体操教室では地域の方と一緒に楽しく過ごされている。また、ボランティアの方々や小学生との交流など、利用者が地域との関わりを持ちながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々近所を散歩するたびに、地域の人が声をかけて下さるなど、認知症への理解を深めてきていると思う。また、自治会の方々がグループホームの存在を多方面で紹介するなど、双方向で認知症の人を支えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見サービスを向上に活かしている	運営推進会議は年数回開催されており、メンバーは学校、地域、民生委員、行政、法人代表から構成されている。会議では、事業報告や行事予定の説明の他、参加者との情報交換が活発に行われ、災害時の協力体制についても話合われている。全体会議を開き評価の意義を話し合い、改善点をユニットごとに取り組むようにしている。	運営推進会議では、事業所から利用者の暮らしぶりや活動報告のほか、介護保険制度についての勉強会や「地域で認知症高齢者を支える」をテーマとした徘徊模擬訓練に参加し振り返りをするなど、幅広い内容での意見交換が行われ、事業所運営やサービスに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ぐるみの防災訓練等、市に来ていただくよう働きかけている。市の高齢者支援課の担当者や密に連絡を取っている。研修会、親睦会を通して良好な協力関係が築かれている。	行政の担当者には運営推進会議でアドバイスをいただいたり、市内地域密着型サービス管理者会議などの機会にコミュニケーションを図られ、良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを原則としているが、緊急やむをえない場合、家族の了解をとっている(ベッド柵等)。	身体拘束適正化委員会が定期的に行われている。その機会に拘束に関する学びの時間をもち、身体拘束の内容とその弊害を確認、言葉での拘束を含め、行動抑制をしないケアを実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待にあたるのかを常に指導し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、学習をしてきたが、職員が学ぶところまで到達していない。必要な人には支援をする用意はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書はすべて音読し、一つ一つの項目に説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時は、できる限り声をかけ思いを聞くようにしている。又、家族の代表の方との意見交換も行っている。家族会を年2回行なっている。利用者の意見、不満、苦情は職員がユニット長、管理者に届け、ケアプランや運営に反映させている。新たに苦情受付表及びファイルを作り、苦情にとどまらず意見等も記録することにした。内容は、第三者委員会にて報告している。	「散歩をしたい」、「家が心配なので帰りたい」など、利用者の要望に応えられている。家族については面会時や家族会などで意見・要望を聞き取られている。その意見や要望は職員間で話し合い、サービスや運営に反映をされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時意見を聞き入れ迅速に対応している。年1回個人面談をし、職員の意見を聞くと共にユニット会議からも意見を聞き、反映させている。	定例会議や個別面談のほか、日常の業務の中でも話し易い職場環境が作られ、意見・提案の聞き取りをされ、外出やレクリエーション企画など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤、準常勤は功労を認め、役職、給与に反映している。非常勤の場合は定期昇給にて反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は内部、外部の研修を受ける機会がある。救命研修には全職員が参加し、スキルアップ、指導者研修へと進めている。また、研修受講者は研修報告書を提出しており、報告書を回覧して職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の理事をするようになって、ネットワークができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談を重視し、話をよく聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いも重視し、ホームとしての対応など事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を見て、入居のあり方を家族、本人、担当ケアマネジャーとよく話し合い、より本人にとって良い方向を工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	世間話や談笑をしながらいろいろな事を学ぶことが多く日々の生活を共に送っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などに参加をして頂き関係を築いている。自分の気持ちをうまく伝えることのできない入居者は、特に家族の意見や考えを聞くようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会、家族との個人的な外出が、喜びに繋がっている。	学友やサークル仲間、ご近所の方の面会、家族と共に旅行を楽しまれたり、自宅や娘さんの家に戻りゆっくり過ごされるなど、これまで大切にしてきた関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が成立しない事がある時は、職員が間に入ることができるだけ関わり合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った場合等、時々面会に行くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どうしたいのかを表現できない入居者が多いため、家族と相談しながら検討している。	利用者一人ひとりとの関わりを多く持ち、気付きを大切に、思いや意向を把握されている。困難な利用者についても、表情や仕草から汲み取られるほか、生活歴の振り返りや家族からの情報をもとに、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントからの情報のみでなく、日常の会話や家族からの新たな情報を会話等で共有するようにしている。家族に生活史を作成してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や口調を観察しながら日々の活動を促したり、休憩を入れたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランには、家族の方が書かれた生活史や本人への聞き取り調査を重視し、作成している。御家族の意見は、家族会や訪問時に聞くようにしている。	利用者・家族から思いや意向を聴き取られ、医師・看護師などの指示を含め、関係する職員で意見交換を行ない、下肢筋力低下防止の生活リハビリを組み込まれるなど、その人らしさを大切に、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の手術等では、長期入院が困難な場合は、臨機応変に受け入れ体制をつくっている。入居者の状況に応じて、柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアには常時来てもらっている。年2回の避難訓練には、消防署、民生委員、地域住民に協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を大事にしながら、医療支援を行っている。例えば、眼科への送迎や必要時の受診付き添いを行っている。	入居時に利用者・家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援は家族対応を基本としているが、職員同行も適宜行なわれ、必要な情報提供を行ない、適切な診療が受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診時や看護師による健康相談や緊急時は電話等で日常的に入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	重度化や終末期に向けては、家族面談を行い、話し合っている。入院時には2～3日に1回は入居者を連れて顔を見に行くようにしたり、必要時は毎日、昼食介助に行く事もある。病院関係者とはこまめに連絡をとり、早期退院を実現している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、ご家族の協力により今までに1件のターミナルケアが実施された。今後もご家族の意向を聞きながらターミナルケアを実施していく。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思確認を進めながら、医師・看護師との連携のもと、支援体制を整え、重度化や看取り支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の防災訓練時に、全員救命講習を受け、AEDの講習も行った。緊急時のマニュアル作成。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月11日に法人内で安否コールの確認のメールが届いたり、3月11日には各事業所で備蓄確認や災害時のシミュレーションを行ったりしている。事業所内防災訓練は毎月行っており、消防署立ち合いでも防災訓練を行っている。その際は地域の方や、法人の他事業所からの応援、協力体制が出来ている。	定期訓練では夜間帯に2階台所からの火災発生を想定し、初期消火・通報・一次避難場所までの避難誘導訓練に取り組まれている。また、毎月11日には全職員向けに安否確認コールが送信され、防災意識の向上と災害時支援体制の確認を試されているほか、備蓄品の整備など、体制整備に努められている。	災害対策には十分取り組まれています。高齢の利用者をあずかる事業所として、災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格、人格を尊重し、9人それぞれオリジナルなケアを行っている。居室に入る時はノックする等、プライバシーには気をつけている。	自立されている方のトイレ利用の際にはトイレ内には入らず、外からの見守りに徹したり、脱衣時には肌を曝さぬようバスタオルで覆うなど、尊厳や羞恥心に対する配慮など、きめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	説明の仕方を工夫し、理解できるよう話しかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、活動等はその人のペースに合わせた事を行えているが、入浴時間は、浴室の作りや安全面を考えて午後になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的なヘアカットにより美容に満足されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌い等を考慮している。準備、片付けも協力しながら行えている。	利用者の個々の状態に合わせて、下拵えや後片付けなど、職員と共に行われている。正月には手作りのお節料理、春先には裏山で取れたふきのとうをてんぷらで楽しまれたり、あんぱんを手作りされるなど、食の楽しみを大切に支援に取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の基本的な食事量、水分量を把握している。体調変化が見られる時はチェック体制を敷き、数字を記録しながら体調回復に努めている。特に水分拒否ぎみの入居者については、時系列で水分摂取量を記録して、1日1,000ccを達成できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	常時声かけをすると共に、確認をしている。本人ができない場合は介助に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	会議等で話し合い、誘導回数を増やしたりしばらく様子を見てから再検討する等、工夫している。	トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行なうほか、利用者個々に事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、負担軽減と自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘だけでなく、浮腫み改善の為に運動や足浴等を取り入れている。家族と医師の許可を得て、下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否の場合でも、再度声かけを行ったり、しばらく様子を見てから再検討する等、工夫している。	午後入浴を基本に、できる範囲で利用者の希望に沿った支援をされている。一部職員2人体制での支援にはなるが、全ての利用者が浴槽にゆっくり浸かり、入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前の散歩運動、フローア又は居室でTVを観る等、自由に過ごして入眠している。昼夜逆転の場合でも、夜間できるだけ入眠を促す工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスへの危険性を充分認識している。2重3重の対策により、重大なミスはなくなった。薬の変更や逆に食事内に変更(コーヒーを飲む、グレープフルーツを食べる)時にも、注意事項を見直して慎重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前行ったことや挑戦したことを聞き出し、生活が単調にならないよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が大好きなので支援している。	事業所周辺での散歩や買物に出かけられるなど利用者の希望に沿った支援をされている。また、初詣やお花見、ハイキングやいちご狩りのほか、家族の協力を得ての外出など、利用者の希望を大切にしたい支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理をできる人はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙ともに要望がない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花や植物、又は季節の行事(七夕、ひな祭り、お月見、クリスマス、お正月等)を飾り、地域の人が親しみを持ってもらえるようにしている。居室や食堂には写真や花を飾る等、明るい空間作りを目指し、入居者と一緒に行っている。一日最低一回の窓の開放、居室換気扇の24時間運転により、十分な換気が行われている。エアコンの調節は日中は日勤、夜間は夜勤者が責任を持って行っている。エアコンのフィルターもこまめに掃除をしている。玄関の植木を楽しめるようにしている。	リビングルームはテラスのある大きな窓で、緑の樹木が見え、明るく開放的で快適な空間となっている。また、ソファが置かれ、テレビをみたり、音楽CDに合わせ歌を唄う方など、ゆっくり寛げる設えとなっている。室内装飾も満開に咲く桜の貼り絵が飾られ、季節感ある装飾で利用者が気持ちよく、ゆっくり過ごせるよう工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士居室訪問をするのを見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	TV、タンス、冷蔵庫等、これまで使用していた物を置くことによって、他にも好みの物を配置できるようにしている。	馴染みの寝具やラジカセ、家族の写真、書道や塗り絵が飾られるなど、利用者が居室内で落ち着いて生活できるよう工夫をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくし、スロープを作っている。又、必要な所に手すりを設置している。トイレのマーク、夜間の照明の工夫、家具の配置など安全と自立を支援している。		

(別紙4(2))

事業所名: 康寿園グループホーム輝

目標達成計画

作成日: 平成 31 年 4 月 8 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策には十分取り組まれているが、高齢の利用者を預かる事業所として災害時の組織対応の維持向上に向けた継続的な取り組みを行う。火災想定での避難訓練だけでなく、昨今顕著な風水害における避難訓練に実施も必要である。	火災による避難訓練以外にも様々な災害に対応できる訓練を行う。	毎月1日に事業所内避難訓練を実施しているが年に2回は風水害による避難訓練も実施する。具体的には火災の場合、入居者は一階のテラスに避難するが、浸水を想定して一階の入居者が階段を使って二階に避難する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。